

## [普及事項]

成果情報名：生産者向け「きゅうり防虫ネット被覆栽培マニュアル」の作成

研究機関名 農業試験場野菜・花き部野菜チーム  
担当者 柿崎絢女・菅原茂幸

## [要約]

県内のキュウリ生産者を対象に、平鹿地域で導入されている防虫ネット被覆栽培技術の導入手順や管理のポイントをまとめたマニュアルを作成した。防虫ネットを使用することで、害虫の侵入や風害の抑制に効果があり、果実品質の向上と収量増加が期待できる。

## [キーワード]

キュウリ・防虫ネット被覆栽培

## [普及対象範囲]

県内キュウリ生産者

## [ねらい]

キュウリの防虫ネット被覆栽培は、福島県で確立された栽培様式であり、簡易パイプハウスに防虫ネットを被覆することで、害虫の侵入や風害を抑制する効果がある。また、一般的なビニールハウスに比べ、安価に建設することができるため、新規就農者も取り組みやすい技術であり、平鹿地域では既に導入されている。そこで、これまでの農業試験場における（試験）研究成果および現地での実証事例を体系的に整理し、導入手順から管理作業のポイント等をまとめた栽培マニュアルを作成した。

## [成果の内容及び特徴]

- 1 本マニュアルは生産者を対象とし、「防虫ネット被覆栽培の特徴」、「品種の選定」、「交配用ミツバチ」、「栽培のポイント」「現地事例」から構成される（図1）。
- 2 防虫ネット被覆栽培は、傷果や樹勢低下による曲がり果が露地夏秋どり栽培よりも少ない。また、茎葉の傷みも少なく、9月以降も樹勢を保つことができる（図2）。
- 3 品種は、露地夏秋どり栽培に適したものをを用いる。防虫ネット被覆栽培での主な品種の特性を本マニュアルに掲載している（表1）。
- 4 防虫ネット被覆栽培では、キュウリの受粉を促す必要があり、ミツバチを導入しなければならない。そのため、ミツバチに影響が少ない農薬を使用する必要がある（表2）。
- 5 生育が露地夏秋どり栽培よりも旺盛になりやすく、側枝の発生が多くなる傾向にあるため、整枝・誘引作業やこまめな摘葉などが必要となる（データ省略）。
- 6 平鹿地域の現地事例を掲載している（データ省略）。

## [成果の活用上の留意点]

- 1 本マニュアルは県内のキュウリ生産者や指導機関等に配布する。

[具体的なデータ等]

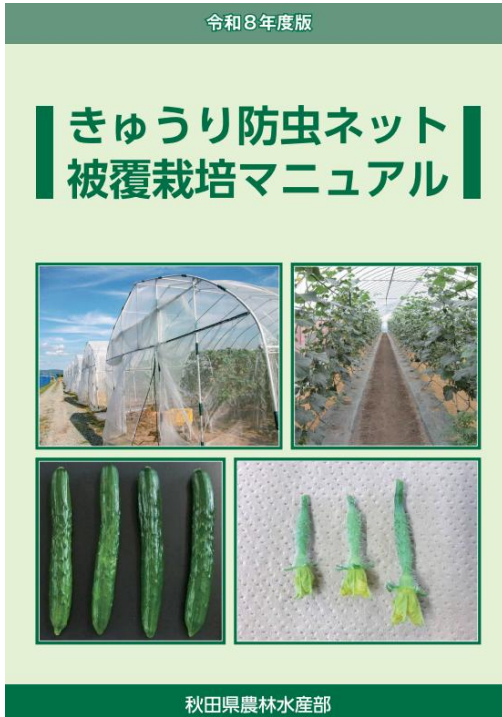


図1 きゅうり防虫ネット被覆栽培マニュアル (表紙)



図2 防虫ネット被覆栽培と露地栽培の比較 (写真 2017年9月19日撮影)

表1 防虫ネット被覆栽培の品種選定

品種例		
品種名	種苗会社	特徴
蒼夏142	埼玉原種育成会	・樹勢がとても強く、多収となりやすい ・側枝発生が多いため、摘心はこまめに行う必要あり
豊美1号		・樹勢は強めて、収量が多い ・力枝を伸ばして草勢をコントロールするのが望ましい
おおのぞみ		・樹勢は強めて、収量が多い ・防虫ネット被覆栽培向けとされる唯一の品種
夏もよう	ときわ研究場	・樹勢は強めて、長く収穫できる ・ミツバチの働きが少ないと流れ果が増加する
光のしずく		・上記4品種に比べると収量はやや少ないが、安定した生育
ピュースター935	久留米原種育成会	・樹勢はおとなしめだが、生育が早く、収量は多め

(秋田県農業試験場で試験を行ったものを抜粋しています)

ポイント

防虫ネット被覆栽培は、通常の露地栽培に比べ、風などのストレスが少なく、ハウス内の温度が高くなるため、生育が旺盛になりやすく、側枝の発生が多くなります。また、着果量が多くなると、曲がり果や尻結果などの不良果が発生するため、側枝の摘心や不良果の摘果などはこまめに行う必要があります。

表2 防虫ネット被覆栽培で使用可能なミツバチへの影響が少ない殺虫剤 (一例)

農薬名	対象害虫
アニキ乳剤	コナジラミ類、ハスモンヨトウ
ウララDF	アブラムシ類、コナジラミ類
チェス顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類
ピラニカEW	アブラムシ類、ハダニ類
プレオフロアブル	アザミウマ類、ウリノメイガ、ハモグリバエ類
プレバノンフロアブル5	ウリノメイガ、ハモグリバエ類
ベネビアOD	アザミウマ類、アブラムシ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、ハモグリバエ類、コナジラミ類
ベリマークSC	アザミウマ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類、コナジラミ類
モスピラン顆粒水溶剤	アザミウマ類、アブラムシ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、コナジラミ類
モベントフロアブル	アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類

※他県の資料や各農業メーカーの情報を参考にし、農業試験場で実際に使用しても影響がなかった農薬です(参考資料:静岡県農業安全使用指針、栃木県農作物等病害虫雑草防除指針)。

※上記以外の農薬でも使用できるものがあります。

※令和7年11月1日時点の登録内容に基づいて作成しています。

※農薬の使用にあたっては、農薬ラベルを必ず確認するとともに最新の情報を参照してください。

[その他]

研究課題名: 野菜の競争力強化を目指した新栽培技術の開発

研究期間: 令和元年度~令和5年度

予算区分: 県単

掲載誌等: きゅうり防虫ネット被覆栽培マニュアル (令和8年3月予定)